

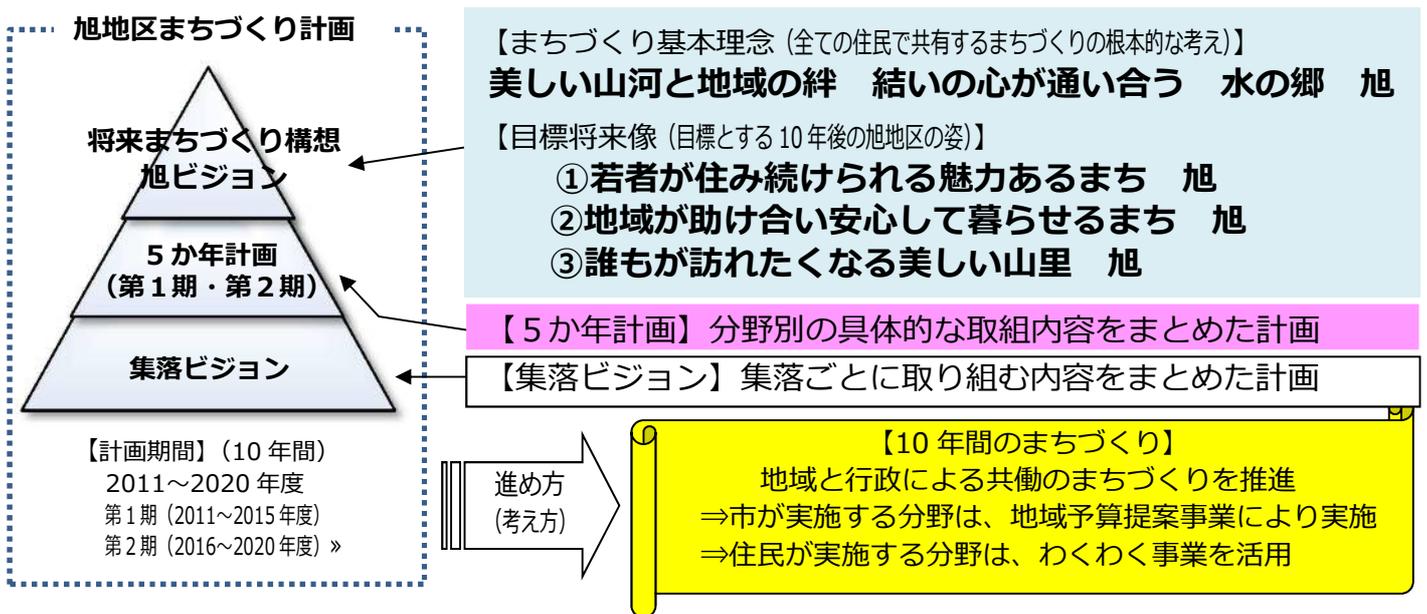
# 第1次旭地区まちづくり計画【2011~2020】の総括

## 現在の旭の姿の検証結果

### 1 第1次旭地区まちづくり計画の概要

旭地区では、2011年に策定した「将来まちづくり構想 旭ビジョン」及び「第1次旭地区まちづくり計画 第1期5か年計画」並びに2016年に策定した「同 第2期5か年計画」を10年間（2011年から2020年）のまちづくりの『道しるべ』としながら、その実現に向けた様々な事業を展開してきた。

〈第1次旭地区まちづくり計画の構成〉



### 2 5か年計画の主な取組実績

(1) 各目標将来像の取組内容の実施状況

目標将来像 (関連分野)		取組内容数 (第2期計画)	主な取組実績 * : 地域予算提案事業
①	定住・生活	5	空き家情報バンク/延べ70組 176人移住 (2019年度末) 低家賃モデル住宅整備/2013年度から供用開始、延べ24世帯 42人移住 旧教職員住宅の活用/2棟売却、1棟地域へ譲渡 (用途: 集会所)
	道路・交通	4	小渡中央広場整備*/待合所・駐輪場、トイレ整備、舗装整備 予約バスの運行/2011年度から運用開始、延べ12,742人乗車 (2019年度末) 通行支障木伐採支援事業*/延べ78か所 (13,804m) 解消 (2019年度末)
②	地域力	3	わくわく事業/申請団体数 毎年9~14団体 (うち新規1~5団体)
	防災・防犯	3	防災マップ作成/全自治区で策定済み
	健康・福祉	4	福祉特派員制度の設計と運用/登録者302人 (2019年度末) 高齢者見守り事業*/緊急時連絡先情報カード作成・配付 (延べ536世帯)
	学習環境	4	放課後児童クラブ開設・運営/小渡小・敷島小で開設 (2014年度)
③	産業・観光	6	花の里づくり事業*/花木支給 (延べ3,753本)、 観光案内看板整備*/68基設置済み
	農地・森林	6	ブランド化推進事業*/ギフトセット作成・販売 旭木の駅PJ*/各年度 出材280~350t、モリ券約2,000~3,000枚発行 森づくり会議設置・団地化促進/28会議設置、107の団地化 (2019年度末)
合計		35	

### 3 現在の旭の姿の検証結果

#### 目標将来像①

**若者が住み続けられる魅力あるまち 旭**（定住・生活、道路・交通分野）

#### 「目指す まちの姿」

- ①若者が旭に住み、より住みやすくするための様々な事にチャレンジができるまち
- ②豊田市街や名古屋への通勤・通学も可能であるほか、市役所旭支所周辺等へも容易に行き来できる交通環境にあるまち
- ③暮らしに必要な物やサービスが揃う商店や公共施設（機能）が充実しているまち

#### 現在の旭の姿（検証結果）

##### ◎現状： ➡

**定住施策による移住は着実に進みつつある。  
また、暮らしに必要な生活基盤やサービスが  
整備されている。**

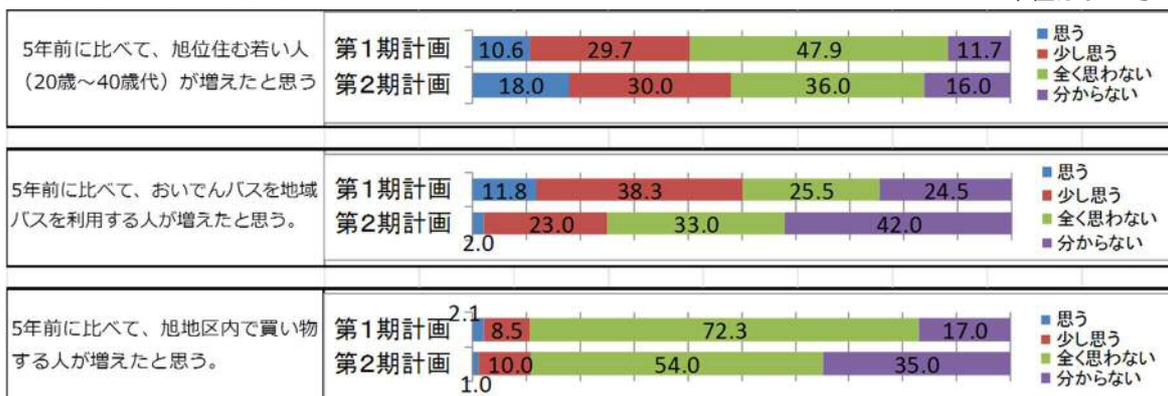
状態	記号
ほぼ、近づいている	↑
近づきつつある	↗
一部は近づきつつある	➡
全く近づいていない	↘

##### ◎理由：

- ① ↗ 『若者が住み様々なことにチャレンジができる』
  - ・空き家情報バンクの入居実績が伸びている。（2020年12月末累計：77世帯187人）
  - ・2015年度と2017年度には、人口の社会動態（転入、転出）がプラスとなった。
  - ・若い人が増えた実感する地域住民が増えている。（48%）
- ② ➡ 『市街地への通勤・通学が可能で、支所周辺や地域の拠点等へも容易に行き来できる』
  - ・整備が進んだ小渡中央広場（バスターミナル）の施設管理が適切に行われている。
  - ・小渡から豊田市までのおいでんバスが1日12本（平日）運行されている。（下りは11本）
  - ・地域バスの路線運行に加え、予約運行も開始し、あわせて年間約3,000人が利用している。（2019年度）
- ③ ➡ 『暮らしに必要な行政・生活サービスが充実している』
  - ・地区内で買い物をする人が増えていると感じている人の割合はほとんど変わっていない。
  - ・地区内の商店数は減っている（2007年：38店⇒2014年：28店）が、従業員数は増加している。（2007年：92人⇒2014年：117人）

#### <住民アンケートの結果>

※ 単位はすべて%



## 目標将来像②

### 地域が助け合い安心して暮らせるまち 旭 (地域力、防災防犯、健康福祉、学習環境分野)

#### 「目指す まちの姿」

- ① 地域住民同士が、お互い様の気持ちを持って、世代間を越えて支え合えるまち
- ② 積極的に地域活動が行われているまち
- ③ 地域の目が行き届き、地域に支えられている安心感から不安なく暮らすことができるまち

#### 現在の旭の姿 (検証結果)

◎ 現状：  **地縁に基づくコミュニティが維持されており、支え合う仕組みも醸成されつつある**

状態	記号
ほぼ、近づいている	↑
近づきつつある	↗
一部は近づきつつある	→
全く近づいていない	↘

#### ◎ 理由：

##### ① → 『世代間を越えて支え合える』

- ・ 世代間の交流が活発になったと実感している人が、約 50%から約 35%に減少している。
- ・ 子ども自体の数も少なく（2019 年：0～14 歳の人口 204 人）、負担軽減のために特定の場所で交流会等が開催される程度でとなっている。

##### ② ↗ 『積極的に地域活動が行われている』

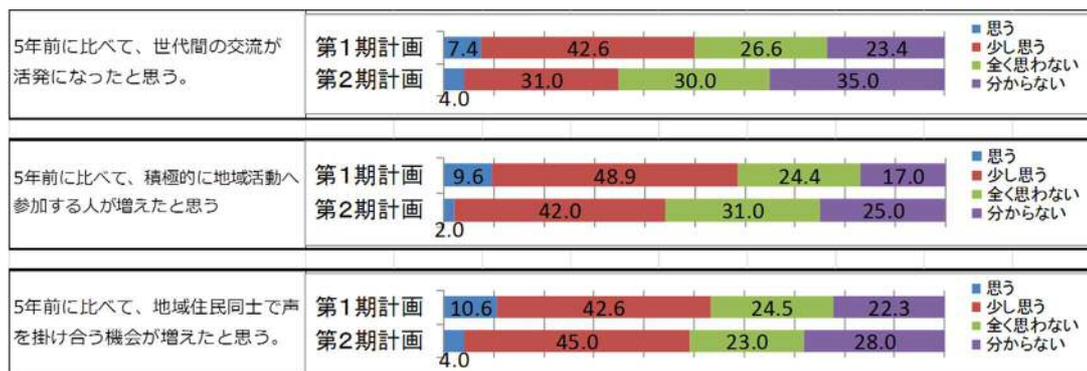
- ・ 住民アンケートでは、積極的に地域活動へ参加している人が増えたという実感が減少している。
- ・ 市民意識調査の結果（2019 年）によれば 8 割近い方が地域活動へ参加しており、市の平均の 5 割程度と比べ、地域活動が盛んに行われている。

##### ③ ↗ 『地域の目が行き届き、不安なく暮らすことができるまち』

- ・ 市民意識調査の結果（2019 年）から 8 割以上の方が近所づきあいに満足しており、日ごろから近所づきあいを行っている。
- ・ 福祉特派員の登録者が 300 名を超え、地域の目が行き届く体制が醸成されつつある。

#### <住民アンケートの結果>

※ 単位はすべて%



### 目標将来像③

誰もが訪れたいくなる美しい山里 旭 (産業・観光、農地・森林分野)

#### 「目指す まちの姿」

- ① 潜在的な価値を持つ森林や農地に人の手がしっかりと入り、山里の豊かな恵みが未来に引き継がれているまち
- ② 農林業にかかわりを持つ暮らしに豊かさを実感できるまち
- ③ 旭地区の自然豊かな景観を活かした四季の魅力に富む取組や、地域住民とのふれあいが訪れる人々を楽しませ、誰もが何度でも訪れたいと感じるまち

#### 現在の旭の姿 (検証結果)

◎ 現状： ➡

山林や農地の整備、活用の取組が継続され  
特産品開発、拠点整備も始まりつつある

状態	記号
ほぼ、近づいている	↑
近づきつつある	↗
一部は近づきつつある	➡
全く近づいていない	↘

◎ 理由：

① ↗ 『森林や農地に人の手がしっかりと入ったまち』

- ・ 農地の活用や山林の整備が進んだと思う人が過半数を上回っている。(55.3%、51.0%)
- ・ イノシシなどの獣害で荒らされている農地もあり、毎年 200 頭以上のイノシシが捕獲されている。

② ➡ 『農林業にかかわりを持つ暮らしに豊かさを実感できるまち』

- ・ 旭木の駅プロジェクトの活動が活発に継続しており、多方面からの注目を集めている
- ・ 一部地域では、都市との交流事業も継続的に行われている。

③ ➡ 『地域住民とのふれあい、誰もが何度でも訪れたいと感じるまち』

- ・ 旭地区に観光で訪れる人が増えたと思う人が過半数を超えている (67.0%、63.0%)。
- ・ 観光入込客数は、2010 年から年間 30 万人程度で推移している。
- ・ 夢たけのこ、ダムカレー、ミネアサヒを使った日本酒など特産品の開発が進んでいる。
- ・ 旭ブランドの確立やダムを活用した熟成日本酒の検討など新たな取組も行われている。

#### <住民アンケートの結果>

※ 単位はすべて%

